

県内9か所の農業改良普及センターからの現地情報をお届けいたします。

みやぎの 12月号

農業普及現場



普及活動標語

思いを形に、あなたのチャレンジを支えます。
応援します。農業普及

NEWS LETTER No.202 2023.12

紹介内容 (11/1 ~ 11/30)

1. みやぎの農業を担う次代の人材育成と革新技術の活用等による生産基盤の強化

- ① 先進的経営体等の育成及び経営の安定化・高度化支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
 - 大崎農改：地域農業の将来を考える～座談会と先進地視察～
 - 亘理農改：令和5年度第1回亘理地域農業普及活動検討会を開催しました
 - 登米農改：なかだ転作集団部会の視察研修会が開催されました
 - 大崎農改：第53回東北農村青年会議岩手大会が開催されました
 - 亘理農改：「輝け農業女子！機械セミナー(その2)」を開催しました
 - 仙台農改：家族経営協定が締結されました

- ② 新たな担い手の確保・育成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
 - 登米農改：登米市地域計画作成に係る「協議の場」実施に向けて動き出しました
 - 気仙沼農改：南三陸町認定新規就農者の就農状況を確認しました
 - 大河原農改：女性農業者等キャリアアップを支援しています
 - 気仙沼農改：気仙沼地区生活研究グループ連絡協議会の移動研修会が開催されました
 - 気仙沼農改：第2回気仙沼地区みやぎ農業未来塾(学生コース)を開催しました
 - 栗原農改：令和5年度ルーラルガイド講習会が開催されました
 - 大河原農改：若手農業者を対象とした経営管理講座を開催しました
 - 登米農改：女性農業者のための農機具研修会を開催しました！

- ③ 園芸産地の育成・強化支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
 - 亘理農改：カーネーションIPM現地検討会を開催しました
 - 気仙沼農改：令和5年産枝もの用クロマツの収穫が始まりました
 - 登米農改：JAみやぎ登米米山イチゴ部会現地検討会・農薬勉強会が行われました
 - 気仙沼農改：令和5年度枝もの用クロマツ広域現地検討会を行いました
 - 亘理農改：りんご栽培講習会(相互視察)が開催されました
 - 石巻農改：石巻地域ばれいしょ実績検討会を開催しました
 - 栗原農改：造成された高収益作物試験ほ場で、初めてたまねぎ定植が行われました
 - 石巻農改：河北せりの現地検討会が開催されました！
 - 仙台農改：利府梨部会で土壌・肥料設計に関する研修会を開催しました！
 - 石巻農改：東松島市産業祭「農産物展示品評会」が開催されました
 - 大河原農改：たまねぎ・ブロッコリーの生産拡大に向けて
 - 気仙沼農改：枝もの用クロマツ生産現地見学会を開催しました
 - 亘理農改：「なとり・ぐるっと親子講座せり収穫体験」が開催されました

- ④ 収益性の高い水田農業・畜産経営の展開支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
- 大崎農改：大豆の収穫に向けて、代表者会議が開催されました
- 農業振興課：令和5年度宮城県農林産物品評会（うるち玄米）を開催しました
- 登米農改：大豆種子生産ほの第2期ほ場審査を行いました
- 登米農改：土壌調査で農地整備事業を支援！

2. 時代のニーズに対応した農畜産物の安定供給

- ① 時代のニーズに対応した農畜産物の安定供給支援・・・・・・・・・・・・・・・・ 11
- 石巻農改：大豆の種子ほ場審査を行いました！
- 大崎農改：JA古川フェスティバルが開催されました

3. 多彩な「なりわい」の創出や多様な人材・機関との連携による持続可能な農業・農村の構築

- ① 地域資源の活用等による地域農業の維持・発展・・・・・・・・・・・・・・・・ 11
- 大崎農改：色麻町で町民まつり・JA加美よつば秋まつりなどが開催されました
- 大崎農改：管内ベテラン女性農業者に事務所若手職員が学ぶ！
- 大崎農改：「西古川ずんだシスターズ」がみやぎ食育表彰奨励賞を受賞しました
- 栗原農改：“しいたけ”と“ズッキーニ”を利用したレシピを作成しました
- 気仙沼農改：JA新みやぎ南三陸地区JAまつりが4年ぶりに開催されました
- 大崎農改：農と食のプロが中学生に教えるそばづくり
- 仙台農改：第1回JA新みやぎあさひなまつりが開催されました
- 亘理農改：地域計画策定に向けた地区協議が開催されました
- ② 環境に配慮した持続可能な農業生産の取組支援・・・・・・・・・・・・・・・・ 14
- 栗原農改：栗原市の有機農業の推進に関する打ち合わせが行われました
- ③ 大規模自然災害等からの復旧・復興・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14
- 石巻農改：(株)宮城リスタ大川にて水稻勉強会を開催しました！

4. その他

- ① 要請・緊急対策、その他・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15
- 登米農改：令和6年度普及指導計画作成に向けた関係機関との連携
- 大河原農改：普及センターの職場研修で、気象について学びました

1. 人材育成・生産基盤の強化

①先進的経営体等の育成及び経営の安定化・高度化支援

○地域農業の将来を考える～座談会と先進地視察～ 令和5年11月8日 大崎農業改良普及センター



大崎農業改良普及センターでは、プロジェクト課題として色麻町清水地区の法人化を軸にした将来の営農ビジョンの形成に対する支援を行っています。

令和5年10月29日、清水地区で先進地視察と合わせた座談会を開催しました。午前中に「視察先の農事組合法人みらいす青生に聞きたいこと」を、ふせんを用いたワークショップで整理し、皆で投票して選んだ質問を、午後からの視察で質問する初めての試みです。

明るい雰囲気です座談会が開催でき、参加者からは「ワークショップ形式は対面で研修会をするより意見を話し合えてよいと思う」とのご意見をいただきました。

午後からの視察では、農事組合法人みらいす青生の代表から丁寧に説明して頂き、座談会で事前に選んだ質問にもご回答頂いたことで、より理解が深まったと感じます。

清水地区では今後、このふせんを用いたワークショップ形式の座談会を展開していきます。

○令和5年度第1回亘理地域農業普及活動検討会を開催しました 令和5年11月8日 亘理農業改良普及センター



令和5年10月12日に、当普及センターで今年度第1回目の亘理地域農業普及活動検討会を開催しました。

この検討会は、当普及センターで取り組む普及指導活動の実施状況について外部有識者等から活動手法や内容などの評価と課題解決に向けた助言をいた

だくため、年度内に2回開催するものです。

今回の検討会では、重点的に支援している活動について、進捗状況や活動成果などを説明しました。

農業法人を対象とした活動では、法人等の維持・発展に向けた人材の育成確保や労務管理について改善策が具体化できたこと、いちごの若手農業者を対象とした若手農業者のネットワークづくり支援の取組を評価する等との意見をいただきました。また、農業の経営継承に向けて実践者視点での貴重な助言等をいただきました。

委員の方々からいただきました助言について、今後の普及活動に活かしてまいります。

○なかだ転作集団部会の視察研修会が開催されました 令和5年11月9日 登米農業改良普及センター



令和5年10月30日に、JAみやぎ登米なかだ転作集団部会の視察研修会が開催され、生産者22人が「山形県農業総合研究センター水田農業研究所」と「株式会社田中畜産」の視察を行いました。

うち、山形県農業総合研究センターからは、つや姫や雪若丸の作柄、来年に向けた高温対策などの説明をいただきました。

今年は例年にないほどの高温の夏となり、各県の稲作において1等米比率の低下が大きな問題となっていることから、高温対策についての関心が高まっており、今回の研修は非常に有意義な時間となりました。

普及センターでは、今後も登米管内の水稻の収量と品質の向上を支援していきます。

○第53回東北農村青年会議岩手大会が開催されました 令和5年11月13日 大崎農業改良普及センター



11月1日(水)に第53回東北農村青年会議岩手大会が岩手県北上市で開催され、当管内の大崎4Hクラブ員5人が出席しました。東北農村青年会議は、東北地域の青年農業者が一堂に会し、日ごろの農業経営や農村生活で得た知識、技術及びプロジェクト活動の成果を相互に交換し、東北の意欲ある担い手として経営のレベルアップを図るとともに、次世代の農業青年の確保育成について考え、将来の東北農業の発展を目指して開催されています。

今年9月に、プロジェクト発表の部、意見発表の部の代表者の動画審査があり、各部門の最優秀者がこの日、大会会場にて発表を行いました。また、宮城県代表で、大崎4Hクラブ員である岸田紗季さん、桑添耕大さんの審査時の動画も会場で上映されました。岸田さんは、来年3月東京で行われる全国農村青年会議の東北代表のひとりに選出され、全国の舞台でプロジェクト発表に挑む予定です。

午後からは、4つのコースの視察研修会が企画され、大崎4Hクラブ員も各々が興味を持つ視察先で学びました。普段体験できない他県での研修や他クラブ員との交流を通して、さらに意欲ある担い手としてレベルアップしていくことが期待されます。

○「輝け農業女子！機械セミナー(その2)」を開催しました

令和5年11月14日

巨理農業改良普及センター



令和5年10月24日に、県庁農業振興課と巨理農業改良普及センターが主催し、岩沼市内のヤンマーアグリソリューションセンター仙台及び農事組合法人林ライスの水田ほ場において、「輝け農業女子！機械セミナー」を開催し、女性農業者や機械操作に不慣れた農業法人の若手従業員等20人(当センター管内からは16人)が参加しました。

午前はヤンマーアグリジャパン株式会社の担当者から、スマート農業とは何か、スマート農業でどのようなことができるのか、農作業事故が多い現状と農作業事故を防ぐための安全な農業機械の使い方等について、プレゼンテーションソフトにより講義があ

りました。県内においても農作業中の死亡事故が多いこともあり、参加者は熱心に耳を傾けていました。

午後は、稲刈りが終了した水田ほ場で57馬力のトラクタ2台を使用し、耕耘作業の実習を行いました。参加者からは、「始めは緊張したが、楽しかった」「真っすぐ耕耘するのが難しかった」等の感想が聞かれました。参加者全員が耕耘作業を体験した後は、実習で使用したトラクタを使用して、講師による自動操舵の耕耘を見学するとともに、参加者も実際にトラクタに乗り、自動操舵を体験しました。

普及センターでは、今後も女性農業者等への支援を行っていきます。

○家族経営協定が締結されました

令和5年11月27日

仙台農業改良普及センター



令和5年11月20日(月)、仙台市若林区の堀江夫妻宅で家族経営協定締結式が行われ、当普及センター所長が立会人として出席しました。

立会人から、「経営主の急逝により経営承継が早まったが、堀江御夫妻が力を合わせて経営を発展させるとともに、地域の農業法人の役員として御活躍され、担い手として成長されることを期待する」と激励の言葉がありました。

堀江さんからは、急な経営承継で戸惑いもあるが、これから夫婦力を合わせて堀江家の農業経営の発展に努力するとの決意表明がありました。

家族経営協定とは、農業経営や生活・将来の目標について家族みんなで話し合い、意欲とやりがいを持って農業を行うためのルールです。普及センターでは、家族経営協定締結の御相談をお受けしております。

②新たな担い手の確保・育成

○登米市地域計画作成に係る「協議の場」実施に向けて動き出しました

令和5年11月6日

登米農業改良普及センター



登米市では地域農業の未来設計図となる「地域計画」の策定に向けて、農業者からの意見を反映した計画とするため、市内9地区で「協議の場」を実施することとしています。

去る10月25日「協議の場」の実施に向けて、有意義な話し合いとなるよう、登米市農業委員、農地最適化推進委員、認定農業者連絡協議会の役員に対して、事前の打ち合わせ会を開催しました。

登米市から「地域計画」策定の目的や意義、農業委員会からは「地域計画」と併せて作成する「目標地図」素案の作成について説明したほか、協議の場の運営を担う(株)NORTH AIMの宮村氏から地域の話合いの進め方について説明がありました。

普及センターからは、昨年、県のモデル事業で登米市内の中田地区を対象として実施した「協議の場」の実施状況について、情報提供を行いました。

普及センターでは、今後実施される「協議の場」が適切に実施され、地域の意見を反映した「地域計画」が策定されるよう支援してまいります。



第1回講座のようす



第2回講座のようす

○南三陸町認定新規就農者の就農状況を確認しました

令和5年11月8日

気仙沼農業改良普及センター



南三陸町では、現在、4名の認定新規就農者が農業次世代人材投資事業等を活用して果樹やせり、藍の栽培に取り組んでいます。

令和5年10月24日、南三陸町と県の担当者によるサポートチームで就農状況確認を実施しました。当日は、ほ場において、栽培管理の状況が適切か、現状の収量が目標に比べてどうか、労働力が確保されているかといった栽培・経営状況について確認しました。

就農年数は4名それぞれですが、将来の目標や次のステップに向けて、勉強を始めたり農地の確保に動いたりしている様子から、新規就農者として定着し、経営者としての自覚が芽生えていることが伺えました。

当普及センターでは、認定新規就農者ごとに2名の普及員を配置して、定期的に巡回指導を行っているほか、就農希望者には市町と連携して相談に応じ、本人の意向を確認しながら就農支援をしており、引き続き、新規就農者に寄り添った活動を継続していきます。

○女性農業者等キャリアアップを支援しています

令和5年11月10日

大河原農業改良普及センター

大河原普及センターでは、今年度新たに「女性農業者等キャリアアップ講座」を開講し、女性農業者や若手農業者の資質向上と農業者間のネットワークづくりを進めています。

講座は全3回の予定で、8月25日に開催した第1回講座では「働きやすい環境づくり」をテーマに、山元町の株式会社一苺一笑を会場に施設見学と代表取締役からの講話を行いました。

第2、3回の講座は、情報発信能力のステップアップを目指し、講師にクリエイティブディレクターとして活躍されている松井未史氏(キノミ主宰)をお招きし、魅力を伝える写真の撮り方とパンフレットづくりについて学びます。

11月2日に実施した第2回講座では、魅力を伝える写真の撮り方について講義と演習を行いました。講師からは、伝えたいメッセージを強く意識し、撮影の時には光を意識することを事例を用いてわかりやすく説明されました。

講義後の演習では、農作物や加工品を被写体に実際にスマートフォンで撮影し、撮影した写真を見ながら講師よりアドバイスが行われました。

第3回講座は11月16日にパンフレットづくりを行う予定です。

○気仙沼地区生活研究グループ連絡協議会の移動研修会が開催されました

令和5年11月17日

気仙沼農業改良普及センター



令和5年11月13日、気仙沼地区生活研究グループ連絡協議会の移動研修会が開催され、グループ員17名が参加しました。

今回は、食肉加工の知識と技術を習得するため、(株)伊豆沼農産でウインナーの手作り体験を行いました。参加者全員が初めての経験であり、手作りの工程に興味深く学びました。また、ポイルしたウインナーの試食が提供され、市販品とは違う味や食感に感動した様子でした。

続いて、場所を移して、登米地域農村生活研究グループ連絡協議会との交流会が行われました。登米地区連からの活動紹介の中で、「行事に積極的に参加して幅広く学び、自分の成長の糧にする」といった発表にうなずき、共感するグループ員も見受けられました。最後に、隣合う地区連であることから今後も繋がりを継続することを確認して終了しました。

普及センターでは、引き続き女性農業者の活動を支援していきます。

○第2回気仙沼地区みやぎ農業未来塾(学生コース)を開催しました

令和5年11月20日

気仙沼農業改良普及センター



令和5年11月16日、宮城県本吉響高校2年生の農業専攻7名を対象に、農業への理解・関心を深め、職業選択の一助とすることを目的として、今年度2回目の「気仙沼地区みやぎ農業未来塾」を開催しました。

今回は、当普及センター管内の主要品目であるいちごをテーマに取り上げ、普及センターから生産状況や栽培管理について講義し、その後、生産者である階上いちご第2復興生産組合の佐藤友耶氏から実習の説明を受けてランナーを取る作業を行いました。実習では、ランナーがうまく取れずに戸惑う生徒がいましたが、コツを覚えると作業スピードが上がり短時間で終了しました。

今回の研修会場は、高校の先輩に当たる佐藤氏のいちご施設であったため、就農した経緯や農業経営について直接話を伺う機会にもなり、有意義な研修となりました。

普及センターでは、今後も教育機関と連携し、担い手の確保に努めていきます。

○令和5年度ルーラルガイド講習会が開催されました

令和5年11月21日

栗原農業改良普及センター



令和5年11月14日(火)に、県栗原合同庁舎会議室で、令和5年度ルーラルガイド講習会が開催され、20人が参加しました。

はじめに、株式会社 WATALIS 代表取締役引地恵氏より、「アップサイクルで創る懐かしくて新しい未来」と題して、東日本大震災の被災地である亘理町で、農村に古くからあるものを素材に新しい価値を生み出し、伝統文化の伝承と発信を行っている同社の活動について講話がありました。

続いて、実習では、蜜燭キャンドルリース作りが行われました。初めての体験に苦戦しながらも、各々の個性が輝いた作品が生まれていました。

参加者からは、「人と人とのつながりや出会いの大切さを学んだ。」「自分の家に眠っている着物の活用について考える良い機会になった。」等の声が聞かれました。

○若手農業者を対象とした経営管理講座を開催しました

令和5年11月21日

大河原農業改良普及センター



大河原農業改良普及センターでは、新規就農者を含む若手農業者が、経営の計数化を通して経営改善を図るよう、みやぎ農業未来塾「若手農業者経営管理講座」を開催しました。

講座は11月9日、20日の2回行い、職員を講師に、簿記帳の目的や複式簿記の仕組み、日常の仕訳、簿

記特有の会計処理について講義を行い、毎回 8 名程度の農業者が参加しました。

農業特有の勘定科目や消費税の複数税率、補助金を受けた場合の圧縮記帳など、難しいところもありましたが、参加者は説明を熱心に聞き入っていました。

参加者の中には令和 5 年から青色申告制度を利用する方もいて、今後はそれぞれの状況に合わせて個別に支援していきます。

普及センターでは会計管理を通して経営改善につなげる農業者が増えるよう、引き続き支援を行ってまいります。

○女性農業者のための農機具研修会を開催しました！

令和5年11月24日

登米農業改良普及センター



令和 5 年 11 月 16 日（木）に、登米管内で女性農業者のための農機具研修会を開催し、管内女性農業者 8 人が参加しました。

株式会社丸山製作所宮城営業所の山内康弘氏を講師に迎え、農作業安全の基礎知識について講義いただくとともに、刈払機の安全な使い方、メンテナンス方法について実演していただきました。研修会後半では、女性農業者のほ場に移動し、参加者全員が刈払機の実習を行いました。女性向け刈払機他、排気量の異なる 2 種類の刈払機を実際に操作し、作業性や使いやすさの違いなどを体験しました。研修会には初心者からベテランまでの女性農業者が参加し、参加者同士が教え合う場面もみられるなど、賑やかな雰囲気での実習となりました。

当普及センターでは、今後も研修会等を通じて、女性農業者を支援していきます。

③園芸産地の育成・強化支援

○カーネーションIPM現地検討会を開催しました

令和5年11月6日

巨理農業改良普及センター



名取市花卉生産組合のカーネーション生産者は、化学合成農薬だけに頼らず天敵を活用する等、様々な技術を併用して病害虫の発生を抑制する I P M（総合的病害虫管理）に取り組んでいます。

普及センターでは、令和 5 年 10 月 27 日に、カーネーション I P M 現地検討会を名取市内の現地実証ほ等で開催し、夏季に行った調査内容を取り組んだ生産者による説明も交えて振り返り、これまでの成果と課題を整理しました。

高柳地区集会所に会場を移して行った室内検討会では、農業・園芸総合研究所園芸環境部から、今シーズン、被害が多く見られたオオタバコガの防除対策について情報提供があり、出席した生産者は、効果的な防除のタイミング等、対策のポイントを確認することができた様子で、「とても参考になった」との声が多く聞かれました。

花き分野での I P M は導入事例が少なく、名取市花卉生産組合の試みは、先進的な活動であり、地域への定着が期待されることから、普及センターでは今後も支援を行ってまいります。

○令和5年産 枝もの用クロマツの収穫が始まりました

令和5年11月9日

気仙沼農業改良普及センター



令和 5 年 11 月 1 日、南三陸町で栽培されている枝もの用クロマツの収穫が始まりました。

今年の収穫初日は好天に恵まれ、11 月とは思えない暖かい日差しのもと収穫が行われました。昨年度までは、クロマツを刈り取った後、ほ場内で古い枝や

不要な松葉の除去が行われましたが、今年度は新たに建設された出荷調製施設内で枝葉の除去を行うため、ほ場では刈り取ったクロマツを適度な本数にまとめ、2tトラックで運搬するだけとなり、作業の効率化が図られています。

収穫されたクロマツは、出荷調製施設に運ばれて、枝葉を除去し、出荷規格毎に選別されたのち、12月の松の市まで保管されます。

生産者である株式会社南三陸 Pine Pro (パインプロ)の後藤代表からは、11月20までに収穫が終わるとのことです。

普及センターでは、クロマツの出荷が終わるまで定期的に巡回し、作業上の問題点などを洗い出し、収穫・調製作業の改善に取り組んでいきます。

○JAみやぎ登米米山イチゴ部会現地検討会・農業勉強会が行われました

令和5年11月10日

登米農業改良普及センター



令和5年10月20日、JAみやぎ登米米山イチゴ部会で現地検討会・農業勉強会が開催され、生産者とその後継者計10人が参加しました。

現地検討会では、宮城県農業園芸総合研究所の研究員を講師に招き、出席者のほ場6か所を巡回して本圃での生育を検討しました。今年、定植後も気温が高く開花が一部遅れる品種もありましたが、おおむね例年よりも前倒しの生育が確認されました。生産者からは、今年の暑さの影響や、一日の寒暖差が大きい時期の温度管理について質問がありました。

農業勉強会では、資材メーカーの担当者を講師に招き、天敵及び生育促進資材について説明を受けました。

米山のいちごは、早いものでクリスマス前からの出荷が予想されます。今後も美味しいいちご生産に向け、支援を行ってまいります。

○令和5年度 枝もの用クロマツ広域現地検討会を行いました

令和5年11月14日

気仙沼農業改良普及センター

令和5年11月2日、株式会社南三陸 Pine Pro の出荷調製施設を会場として、県主催による枝もの用クロマツ広域現地検討会を開催し、宮城県クロマツ研究会員(12名)及び栽培希望者(3名)、県関係者(9名)が参加しました。

検討会では、検討会前日の11月1日から始まった枝もの用クロマツの出荷調製作業を見学し、出荷用の規格や選別方法について学びました。



昨年度は、クロマツを収穫したほ場で古い枝や不要な松葉の除去を行い、太さ別に粗選別を行っていましたが、今年度は新たに建設された出荷調製施設内で枝葉除去作業を行い、クロマツ用の選花機を利用して出荷調製作業の効率化に取り組んでおり、昨年度とは異なった調製作業方法に多くの参加者は感心していました。

県では、県内各地に枝もの用クロマツ産地を作ろうと計画しており、今後は、3月上旬にクロマツの苗を掘り上げる作業があるので、この作業を見学する研修会を開催する予定です。

○りんご栽培講習会(相互視察)が開催されました

令和5年11月16日

亘理農業改良普及センター

令和5年11月14日、山元町りんご組合主催の栽培講習会(相互視察)が開催され、組合員8人が参加しました。本講習会は、毎年、主力品種である「ふじ」の収穫直前のこの時期に開催されています。今回は4園地を相互視察し、りんごの生育状況を参加者で確認しました。

今年、夏季の高温少雨など例年になく気象条件の影響を受け、果実の着色が進みにくいなど栽培管理に苦労した年となりました。そうした中、各生産者は品質向上を目指して管理作業を進めてきました。現在は中生品種が販売されており、11月下旬以降には「ふじ」の販売も始まる見込みとなっています。

当普及センターでは、今後も管内りんご産地の支援を行ってまいります。

○石巻地域ばれいしょ実績検討会を開催しました

令和5年11月17日

石巻農業改良普及センター

令和5年11月6日に石巻合同庁舎で「石巻地域ばれいしょ実績検討会」を開催しました。当日は(株)カルビーポテトとの契約栽培で大規模にばれいしょを栽培している農業法人4社や(株)カルビーポテトの現場担当者、JA いしのまきの営農担当者等の参加がありました。



初めに普及センターから今年の気象経過やばれいしょの収穫量等の情報提供を行った後に、法人による意見交換を行いました

「植え付け」、「栽培管理」、「収穫・規格外いもの取り扱い」の3点をテーマにした意見交換では、「ほ場選定の重要性」や「生産者同士が近接ほ場で相互に状況を確認しながら栽培することのメリット」、「防除回数が収量に影響する」などの有益な情報が得られました。

一方で、排水性が悪く、地力のないほ場での栽培や薬剤散布回数と薬剤コストなどの課題が検討されました。

一部の法人では出荷収量で3 t /10a を超える豊作となりましたが、なお乗り越えなければならない課題があります。

普及センターではこうした課題に対応すべく、(株)カルビーポテトやJAいしのまきと協力し、石巻地域におけるばれいしょ作付けの拡大に向けた取組を推進していきます。

○造成された高収益作物試験ほ場で、初めてたまねぎ定植が行われました

令和5年11月20日

栗原農業改良普及センター

栗原市津久毛地区では、ほ場整備に伴う高収益作物試験ほ場が造成され、この度、初めて高収益作物の取組が行われることから関係機関と連携し、地区の担い手や関係者を対象とした、たまねぎ定植現地研修会を開催しました。

研修会では、関係機関等から、試験整備ほ場の概要や専用定植機の説明が行われました。普及センターからは、土壌診断に基づく施肥設計や栽培に関する情報提供を行いました。

参加者からは、加工用と生食用の違いや、定植機に関する質問が寄せられました。また、定植作業を行った生産者からは、初めて使用した定植機などの感想がありました。

管内の生産面積は近年増加傾向であり、普及センターでは関係機関と連携し、引き続き定着や生産拡大に向けて支援していきます。



○河北せりの現地検討会が開催されました！

令和5年11月21日

石巻農業改良普及センター



令和5年11月1日に河北せり振興協議会の現地検討会が開催されました。石巻市河北地区で生産されるせりは「河北せり」として、青果物では県内初のGI(地理的表示)登録をされています。

現地検討会では協議会員12人が参加し、各ほ場を巡回しながら、生育中の冬せりの栽培管理、病害虫管理について検討を行いました。

今夏の高温により、種田において葉が焼けるなど被害をがあり、冬せりへの影響が心配されましたが、順調に生育し、すでに出荷が始まっています。12月の最盛期に向け、出荷量も増加する見込みです。

普及センターでは今後も、ほ場の巡回等を行いながら、良品質なせり生産を目指して技術指導を行っていきます。

○利府梨部会で土壌・肥料設計に関する研修会を開催しました！

令和5年11月22日

仙台農業改良普及センター



J A仙台利府支店を会場に、利府梨部会員を対象とした土壌と肥料に関する勉強会を開催しました。研修内容をしっかり理解してもらうため、研修会を2回に分けて開催しました。

10月26日に開催した1回目は、「肥料や土壌に関する基礎的な知識を学ぶ」というテーマで、朝日アグリア株式会社の鈴木秀輔氏を講師にお招きし、13名が参加して研修しました。2回目は11月17日に開催し、個々の土壌診断結果をもとに、施肥設計に関する考え方と肥料計算について当普及センターの職員が講義を行いました。こちらも13名出席し、最近の肥料高騰に伴う肥料費節約にも役立つ内容ということもあって、参加者は熱心に研修を受講されている様子でした。質疑応答や生産者同士でも意見交換が行われるなど、和気あいあいとした雰囲気での研修会となりました。

今後も普及センターでは、利府梨の生産振興に向けて支援を継続してまいります。

○東松島市産業祭「農産物展示品評会」が開催されました

令和5年11月22日

石巻農業改良普及センター



令和5年11月12日(日)に、東松島大曲地区体育館において、第三回東松島市産業祭「農産物展示品評会」が開催されました。今年は、夏の猛暑の影響により、特に果菜類、ねぎ、葉物類で生産量が落ち込み、昨年の約三分の二の出品数にとどまりましたが、32人の生産者から選りすぐりの43点が出展されました。そのうち、トマト、いちご、ねぎ、きゅうりなど、東松島市の主要な園芸作物を中心に、金賞10点、銀賞10点が授与されました。

農家の皆さんは、今年の猛暑により、栽培管理や病虫害防除に大変苦労されたかと思われますが、特に受賞された出品物は、いずれも品目特有の大きさ、形、色などの品質を有する高品質なものであり、生産者の日頃からのたゆまぬ努力が感じられる品評会となりました。

受賞された皆さん、おめでとうございます。普及センターでは、気象変動にも負けない農産物の安定生産に向けて支援を行ってまいります。

○たまねぎ・ブロッコリーの生産拡大に向けて

令和5年11月29日

大河原農業改良普及センター



令和5年11月17日、J Aみやぎ仙南と共催で仙南地域たまねぎ・ブロッコリー拡大推進研修会をJ Aみやぎ仙南本店で開催しました。約50名が集まり参加者は熱心に講演を聞いていました。

仙南地域ではみやぎ園芸特産振興戦略プランの重点品目として、生産振興を進めている品目に「たまねぎ」と「ブロッコリー」があります。今回はこの二つの作物を栽培している県外法人の講演を中心に、地域で問題となっている病害の防除、J Aみやぎ仙南の取り組み等について情報提供を行いました。

はじめに福島県南相馬市原町区でたまねぎとブロッコリー併せて4haを経営している「豊かな福島をつくる豊福ファーム株式会社」の代表取締役である豊田雅夫氏の講演がありました。豊田氏は平成27年に農業以外からの新規参入でたまねぎ栽培に取り組んだ方で、秋から春にかけて収穫するブロッコリーを栽培した後に、3月末から緑肥作物を栽培し夏にすき込み、10月にたまねぎを定植し6月頃に収穫する作業を行っています。特に、たまねぎの作業はほとんどが機械化されており、効率的な栽培体系を進めていることについてお話がありました。

また、農業園芸総合研究所からは仙南地域で問題となっているブロッコリーの黒すす病対策として定植30日後頃からの予防防除の徹底について注意喚起がありました。それ以外ではJ Aみやぎ仙南からたまねぎ・ブロッコリーの取組状況、当普及センターからはたまねぎの収量構成要素から自分の栽培上の課

題を見つける方法等の情報提供を行いました。

普及センターでは、今後も関係機関と一体となり、仙南地域の園芸振興に取り組んで参ります。

○枝もの用クロマツ生産現地見学会を開催しました 令和5年11月29日 気仙沼農業改良普及センター



令和5年11月22日、気仙沼市・南三陸町内の枝もの用クロマツ生産ほ場2カ所を会場に、普及センター主催で枝もの用クロマツ生産現地見学会を開催しました。

枝もの用クロマツ（以下、クロマツ）は、南三陸町の株式会社南三陸 Pine Pro を中心に、県内5市2町（14名）で生産されていますが、地域内でのさらなる拡大を目指しクロマツの栽培方法や収益性について生産現地見学会を開催しました。

当日は、クロマツに関心のある4名の方に参加していただき、クロマツの苗定植1年目のほ場、2年目のほ場、収穫作業をしているほ場をそれぞれ見学してもらいました。

参加者からは、「耕作放棄地を利用して栽培したい」、「出荷するのは手間だが南三陸 Pine Pro が協力してくれるならやれるか」、「まずは10a定植してみるか」とクロマツ生産に前向きなコメントを多くいただきました。

県では、枝もの用クロマツ栽培を支援するとともに、地域内の生産面積の拡大を行うため、今後も生産者の掘り起こしを行っていきます。

○「なとり・ぐるっと親子講座せり収穫体験」が開催されました 令和5年11月30日 巨理農業改良普及センター



名取市地域農産物等消費拡大推進協議会（事務局：名取市農林水産課）が主催する「なとり・ぐるっと親子講座せり収穫体験」が令和5年11月11日に開催され、普及センターは運営支援を行いました。

当日は、あいにく肌寒い日となりましたが、13家族37人の親子が「せり」の収穫や洗浄を見学した後、洗浄・調製作業を体験しました。

また、講師を務めた生産者からは名取市でせりが栽培された歴史や栽培の苦労について、JA担当者からは食卓にせりが並ぶまでの流通についてパネルを使いながら説明がありました。

参加者からは「寒くありませんか。水に浸かりながらの作業は大変ですね」などの声が聞かれ栽培の苦労を実感したようでした。

また、生産者からは「『仙台せり』を鍋物などで美味しく召し上がってください」と一言ありました。

普及センターでは、地元の農業への理解を深める取組を支援し、名取市の特産品のファンが一人でも多く増えるよう努めていきます。

④収益性の高い水田農業・畜産経営の展開支援

○大豆の収穫に向けて、代表者会議が開催されました

令和5年11月6日

大崎農業改良普及センター



令和5年10月20日（金）、JA古川の大豆生産組織代表者会議が開催されました。今年、JA古川では1,168haの農地で大豆の栽培に取り組んでおり、まもなく収穫時期を迎えます。

会議には各生産組織の代表者が集まり、収穫用コンバインや乾燥調製施設の利用方法について確認を行いました。普及センターからは、生育状況や収穫適期の判断方法について説明しました。今年は特に、生育が良好なほ場では、莢が茎の下部にまでついているため、刈り取りの高さに注意し、土を掻き込まないようにすること、また雑草が多発しているほ場が散見されるため、収穫前に雑草の抜き取りを行い、汚粒の

発生防止に努めることを呼びかけました。
普及センターでは、引き続き大豆の高品質安定生産に向けて、技術支援を行ってまいります。

○令和5年度宮城県農林産物品評会(うるち玄米)を開催しました
令和5年11月20日
宮城県農業革新支援センター
(農政部農業振興課普及支援班)



令和5年11月13日、14日に、宮城県庁1階ロビーにて、県内農林産物の生産振興と県民の皆様にご覧いただくため、農林産物品評会(うるち玄米の部)を開催しました。今年度の農林産物品評会は、より多くの生産者が農林産物を出品できるよう、品目ごとに旬の時期に開催しています。

うるち玄米の部では、134点の玄米が出品され、品質や外観が最も優れた農事組合法人北向結ファーム(村田町)の「つや姫」に農林水産大臣賞が授与され、他の入賞品やすべての出品玄米とあわせて、県民の皆様にお披露目しました。

[農林水産大臣賞受賞者]
村田町 農事組合法人北向結ファーム
(きたむきゆいふあーむ)
品種：つや姫

その他の入賞者は、[こちらの県のウェブページ](https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/nosin/r4hinnpyoukai_kekka.html)
[＜外部サイトへのリンク＞](https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/nosin/r4hinnpyoukai_kekka.html)をご確認ください。

https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/nosin/r4hinnpyoukai_kekka.html

○大豆種子生産ほの第2期ほ場審査を行いました
令和5年11月24日
登米農業改良普及センター

登米管内には、「ミヤギシロメ」約29ha、「タチナガハ」約16haの大豆種子生産ほが設置されており、令和5年11月9日、17日、20日の3日間で、第2期ほ場審査を実施しました。

今年大豆は、生育前半は天候に恵まれ、順調に生育しましたが、生育中盤以降高温が続き、特に開花期頃に高温・乾燥の厳しい条件となりました。

「タチナガハ」では、例年であれば刈り取りが終了しているはずの現在も落葉していない青立ち株が多く見られています。

また、大豆の粒が小さく、ばらつきも大きいため、収量・品質面で例年より劣るのではないかと心配されます。

そのような状況下において、管内の種子生産ほでは、刈取前の青立ち株の除去が必要ではありますが、全筆合格となりました。これから順次刈り取りを進めていく予定です。

普及センターでは、今後も優良種子生産について支援を行ってまいります。

○土壌調査で農地整備事業を支援！
令和5年11月27日
登米農業改良普及センター



農業の生産性向上と担い手への農地集積を進める手法の一つに、農地の整備が挙げられます。水田を畑地として利用するには暗渠排水の整備が不可欠ですが、暗渠の高さや間隔を決めるためには、土壌の特性を把握することが必要になります。

10月中旬から11月中旬にかけ、令和8年度に農地整備事業採択を予定している登米市内2地区の土壌調査が行われ、普及センターが土壌の判定を行いました。

10月の調査では、検土杖による調査を行い、土壌タイプ別に農地を区分しました。その結果をもとに各地区4カ所の試坑(穴)が掘られ、11月は試坑に入って土層の厚さ、土性や土色等の調査を行いました。調査自体は一カ所20分程度と順調に進みましたが、1m近く水が溜まっていたところもあり、畑地利用のためにはやはり暗渠排水が必要であると感じました。

普及センターでは、収益性の高い水農業推進に向け、引き続き支援を行ってまいります。

2. 農畜産物の安定供給

①時代のニーズに対応した農畜産物の安定供給支援

○大豆の種子ほ場審査を行いました！ 令和5年11月2日 石巻農業改良普及センター



令和5年10月24日から27日にかけて大豆の種子生産ほ場のほ場審査を行いました。

石巻管内の大豆種子はタンレイ、ミヤギシロメ、タチナガハの3品種を6法人1生産組合が約29haで生産しています。宮城県産大豆の品質向上や維持のため、大豆種子生産ほ場では開花期と成熟期の2回に分けてほ場審査を行います。今回のほ場審査は成熟期の審査となり、異株や病害の有無等の審査基準と照らし合わせながら生産ほ場の可否を判定しました。

今年は高温少雨の時期が続き、高温障害や干ばつ害等の大豆の生育への影響が心配されていました。今回の審査ではやや小粒傾向は見られましたが、さや着きがよいほ場や生育が順調なほ場もあり、全ほ場合格となりました。11月以降は刈り取り時期となるため、生産者の方々は雑草の除去や機械の整備等、収穫に向けて準備を進めています。

当普及センターでは今後収穫された種子の品質や発芽率を評価する生産物審査を行う予定です。これからも優良かつ安定した大豆種子生産に向けて生産者の支援を行っていきます。

○JA古川フェスティバルが開催されました 令和5年11月10日 大崎農業改良普及センター



好天に恵まれた令和5年10月28日に、JA古川フェスティバルがJA古川経済センター（古川新田）で開催されました。当JAでは令和元年の台風被害、その後の新型コロナウイルスの影響でしばらく開催を見送っていましたが、5年ぶりの開催ということもあり多くの来場者で賑わいました。

同時開催の農林産物品評会には、今年の夏が高温や水不足など過酷な栽培環境であったにもかかわらず、150点を超える出来栄のよい農産物が出品されました。

審査の結果、金賞11点、銀賞17点、銅賞17点が選定され、うち株稲、玄米、ねぎ各1点が金賞1席となり、JA褒賞授与されました。いずれも生産者の努力や技術の高さが伺えるものでした。

3. 持続可能な農業・農村の構築

①地域資源の活用等による地域農業の維持・発展

○色麻町で町民まつり・JA加美よつば秋まつりなどが開催されました 令和5年11月7日 大崎農業改良普及センター



11月5日（日）に色麻町農村環境改善センターなどを会場に第39回色麻町町民秋まつり、第21回JA加美よつば秋まつり、第43回町民文化祭が同時開催されました。

これらの秋まつりは、コロナ禍の影響により4年ぶりの開催となり、町内で収穫した野菜や特産のえごまを使った加工品などのふるさと物産販売や農産物品評会、踊りなどのステージ発表など多彩な催しがありました。中でも猛暑にもかかわらず農産物品評会に出品された野菜の見事な出来栄には、来場者から感嘆の声が多く聞かれました。

曇天の空模様ではありましたが、会場には町内外から多く来場者があり、両手に買い物袋を抱えて帰路につく方が多くみられました。

○管内ベテラン女性農業者に事務所若手職員が学ぶ！ 令和5年11月14日 大崎農業改良普及センター



加美町小野田にある農家民宿「花袋・天王」は、田舎料理と四季を通じた自然体験・農業体験ができる農家民宿として平成13年のオープン以来、県内外から観光客等が訪れる人気の農家民宿です。民宿の代表である加藤重子氏は、農事組合法人「やくらい土産センターさんちゃん会」の代表理事も務め、管内の女性農業者のトップランナーとして今も精力的に活動しています。

加藤代表のこれまでの取組を伺うため、11月9日(木)に北部地方振興事務所若手職員が農家民宿「花袋・天王」を訪れました。野菜たっぷりのおいしい料理をいただきながら、和やかな雰囲気の中、加藤代表から、農家民宿を始めるきっかけや土産センターの立ち上げなど、40年近くにわたる活動内容をお話いただきました。

当事務所の若手職員は、農業以外の部署の職員もおり、普段接することのない管内のベテラン女性農業者の話に興味深く伺っていました。

○「西古川ずんだシスターズ」がみやぎ食育表彰奨励賞を受賞しました
令和5年11月15日
大崎農業改良普及センター



11月6日(月)に令和5年度みやぎ食育表彰授賞式が行われ、「西古川ずんだシスターズ」が奨励賞を受賞しました。

「西古川ずんだシスターズ」は、その名のとおり、宮城の郷土食「ずんだ」の魅力を広げるため、ずんだもちをはじめとした郷土食の伝承、普及を行なうグループです。平成30年に活動を開始してから、大人から子供まで、外国人、障害のあるなしに関わらず、誰でもずんだもち作り体験ができるように体験内容を工夫し、幅広い対象者への食育活動を積極的に行っています。また、ずんだもち作り体験は「大崎耕土」で生まれた食文化として、世界農業遺産を学ぶためのワークショップでも実施されており、地域の伝統文化の伝承に大いに貢献しています。これらの活動が評価され、今回の受賞になりました。今後、一層の

ご活躍が期待されます。

○“しいたけ”と“ズッキーニ”を利用したレシピを作成しました
令和5年11月20日
栗原農業改良普及センター

栗原市は県内イチの“しいたけ”“ズッキーニ”産地です



宮城県栗原市は、県内イチの“菌床しいたけ”と“ズッキーニ”の産地です。

普及センターでは、地域の会席料理店の協力を得て、認知度向上と利活用促進のため、県内イチの“しいたけ”“ズッキーニ”を材料にしたレシピを紹介しています。

先に開催された全国苔フェスティバル in 栗原2023でレシピを配布したところ、用意した100部は全てなくなり、関心の高さが伺われました。

是非みなさんも、県内イチの食材を用いた料理で栗原を堪能してみてくださいはいかがでしょうか。

○JA 新みやぎ南三陸地区 JA まつりが4年ぶりに開催されました
令和5年11月20日
気仙沼農業改良普及センター

令和5年11月12日に「JA 新みやぎ南三陸地区 JA まつり」がJA 新みやぎ気仙沼支店構内の特設会場で4年ぶりに開催されました。当日は肌寒い天候でしたが、「餅まきイベント」や地域の農林産物や加工品等の販売ブースには大勢の来場者がつめかけ、大盛況でした。

JA まつりの一環として開催された「農産物共進会」には、JA 新みやぎ南三陸地区管内から野菜、果実、穀類の部で合計291点が出品・展示され、いずれも甲乙付けがたい出来栄でした。前日の11月11日に行われた審査会では、当普及センター職員も審査にあたり、金賞5点、銀賞7点、銅賞15点が選定されました。午後には出品物の販売会があり、地場農産物の質の高さを地元消費者等に広く知っていただく良い機会となりました。



ある高橋公氏から、「この食農講座で行ったそばの栽培や調理をきっかけに地元の農業に対して興味を持ってもらいたい」との講評がありました。

○第1回 JA 新みやぎあさひなまつりが開催されました

令和5年11月29日
仙台農業改良普及センター



○農と食のプロが中学生に教えるそばづくり
令和5年11月27日
大崎農業改良普及センター



令和5年11月12日(日)、第1回 JA 新みやぎあさひなまつりが開催されました。

JA 新みやぎは、令和元年7月1日に県北地域の5JA(栗っこ、南三陸、あさひな、いわでやま、みどりの)が合併し「新みやぎ農業協同組合(愛称:JA 新みやぎ)」となりました。合併後記念すべき第1回のあさひなまつりは、令和元年10月10日~13日の台風19号による大雨の大災害で中止となり、その後コロナの影響を受けて中止が続き、令和5年に晴れて第1回の開催となりました。

今年の夏の猛暑による影響により、生産者は出品する農産物の管理に大分苦労があったようですが、76点が集まりました。農産物の審査では、地元の特産品である「ねぎ」の出品点数が22点と最も多く、揃い・品質が高く審査に苦労しました。最も優秀な出品物に対して、JAからの表彰と副賞として各市町村長賞及び仙台地方振興事務所長賞などが授与されました。

来年も災害などがなく、無事に第2回目のあさひなまつりが開催されるよう期待します。

大崎市鳴子地域認定農業者連絡協議会では、毎年、鳴子中学校1年生を対象とした農業体験学習「農と食をつなげる食農講座」を実施しています。この講座では、認定農業者連絡協議会の会員が講師となり、中学生に鳴子地域の特産であるそばの栽培やそば打ち体験を指導しています。

令和5年11月15日に、中学生が収穫したそばを使ったそば打ち体験講座が開催されました。認定農業者のほか、鬼首そば生産組合や地元でそば打ちをしている職人など、保護者も含め、地域の方々みんなで中学生にそば打ちを教え、和気あいあいとした雰囲気の中で、見事な手打ちそばが完成しました。手打ちそばのほか、鳴子産野菜をたくさん使った「なる子ちゃんこ鍋」と、鳴子上原の牛乳を贅沢に使用した牛乳プリンをいただきました。

最後に、鳴子地域認定農業者連絡協議会の会長で

○地域計画策定に向けた地区協議が開催されました

令和5年11月30日
亘理農業改良普及センター

名取市において、地域計画策定に向けた地区協議が11月20日から28日までのうち5日間、認定農業者等の担い手、農業委員、農地利用最適化推進委員を参集して開催されました。



協議に先立ち、普及センターから、名取市全体の年代別認定農業者の状況と10年後の担い手の予測を説明し、担い手が減る中で誰が地域の農地を維持管理していくのかについて話題提起しました。続いて市から地域計画策定の概要が説明された後に意見交換を行いました。

市内東部地区では東日本大震災に伴う農地整備事業により、認定農業者や農業法人に多くの農地が集積されており、今後は集約をどうするかが課題となること、西部地区では小区画の未整備農地が多く、耕作されていない農地もあることから、その対応をどうしていくのが課題となることが確認されました。

出席した担い手からは、「集落単位での出し手農家も交えた話し合いが是非とも必要」との意見が出されました。

市では、今後の進め方を更に検討して作業を進めていくこととしています。

普及センターでは、地域計画策定について引き続きサポートしていきます。

②環境に配慮した持続可能な農業生産

○栗原市の有機農業の推進に関する打ち合わせが行われました

令和5年11月9日

栗原農業改良普及センター



令和5年10月24日(火)、栗原市築館ふるさとセンターにおいて「栗原市の有機農業推進に関する打ち合わせ」が、栗原市の主催により開催されました。打ち合わせには、有機農業の実践者、栗原市、JA新みやぎ(旧栗っこ)、東北農政局、有機米デザイン(株)が参加しました。

現在の栗原市の有機農業の取組状況を踏まえ、取組目標の設定の考え方や、今後の有機農業の推進に向けたスケジュール、推進に向けた取り組みの概要について検討が行われました。

東北農政局からは、環境にやさしい農業に取り組むための施策として「みどりの食料システム戦略推進の取組状況」、みどりの食料システムの認定制度「みどり認定」について情報の提供が行われました。

有機農業の実践者の方からは、推進に向けた課題や改善策等についての御提案をいただき、活発な意見交換が行われ有意義な話し合いとなりました。

③大規模自然災害等からの復旧・復興

○(株)宮城リスタ大川にて水稲勉強会を開催しました!

令和5年11月27日

石巻農業改良普及センター



令和5年11月22日に当普及センター主催で(株)宮城リスタ大川において水稲勉強会を開催しました。

(株)宮城リスタ大川は、東日本大震災で津波の被害から復旧した農地を中心に193haの面積で水稲を作付けしている県内でも最大規模の土地利用型農業法人です。

今年の水稲は高温の時期が長く続き、品質への影響や白未熟粒が例年より多く発生しました。本勉強会では同法人の生育調査や収量調査結果をもとに今年の水稲を振り返りました。また、来年以降の水稲に向け、乾田直播栽培の除草に関する栽培指導を行ったほか、高温対策や土づくりなどについて社員の方々と積極的な意見交換を行いました。

当普及センターは、これからも復興した農地の担い手への栽培支援を行っていきます。

4. その他

①要請・緊急対策、その他

○令和6年度普及指導計画作成に向けた関係機関との連携

令和5年11月7日

登米農業改良普及センター



登米圏域では、地域の農業振興に向けて行政や農業関係団体と緊密に連携をとり、事業推進を行うことを目的に「登米圏域の農業振興に関する情報連絡会」を開催しています。

去る11月1日に、今年度第2回目となる情報連絡会を開催し、今回は令和6年度の普及計画作成に向けて、情報交換を行いました。

登米市からは、資材価格高騰への対応など、生産コスト削減に向けた取組や、地域計画作成に向けた支援、ほ場整備予定地区の担い手育成に向けた支援などについて意見をいただきました。JAみやぎ登米からは園芸振興や「みどりの食料システム戦略」への対応に向けた取組の支援などについて、意見をいただきました。

登米農業改良普及センターでは、今回の意見も参考としながら、令和6年度の普及計画作成に取り組んでまいります。

○普及センターの職場研修で、気象について学びました

令和5年11月10日

大河原農業改良普及センター



大河原農業改良普及センターでは令和5年10月26日、所属する職員を対象として、気象に関する職場研修を実施しました。

講師には、仙台管区気象台地域防災推進課のリスクコミュニケーション推進官を招き、高温の記録が

続いた今年の夏を振り返り、さらに農業に役立つ気象情報の利用等について学びました。

長期的な観測データから世界的な平均気温が上昇しており、東北地方の平均気温も同様に上昇していました。それに伴い極端な降水の頻度が増加していることなど、グラフ等を用いて説明いただきました。

気象庁では、ホームページ上で「農業に役立つ気象情報の利用の手引き」を公開しており、最新の気象情報に関するコンテンツも増えていることを教えていただきました。我々普及指導員の現場活動において、もっと積極的に活用していく必要があると感じました。

普及指導員が県内9か所の普及センターで、農業者を支援しています。

<大河原>
〒989-1243
大河原町字南 129-1
TEL:0224-53-3519

<亙理>
〒989-2301
亙理町逢隈中泉字本木9
TEL:0223-34-1141

<仙台>
〒981-0914
仙台市青葉区堤通雨宮町4-17
TEL:022-275-8320

<大崎>
〒989-6117
大崎市古川旭四丁目1-1
TEL:0229-91-0727

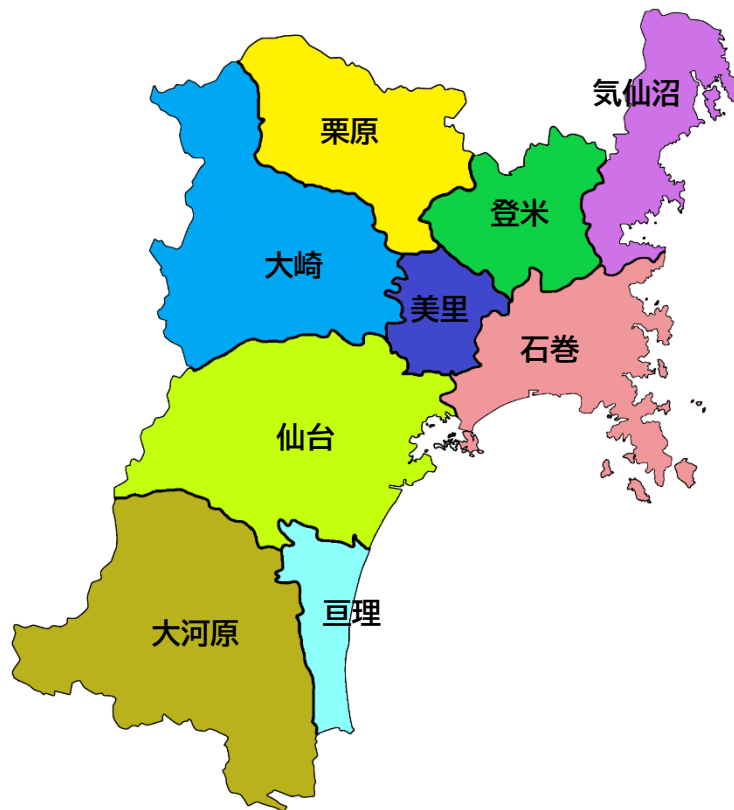
<美里>
〒987-0005
美里町北浦字笹館5
TEL:0229-32-3115

<栗原>
〒987-2251
栗原市築館藤木5-1
TEL:0228-22-9404

<登米>
〒987-0511
登米市迫町佐沼字西佐沼 150-5
TEL:0220-22-8603

<石巻>
〒986-0850
石巻市あゆみ野5-7
TEL:0225-95-7612

<気仙沼>
〒988-0181
気仙沼市赤岩杉ノ沢 47-6
TEL:0226-25-8068



***各農業改良普及センターには、「地域の食と農の相談窓口」を設置しております。食や農に関して知りたいことがありましたら、上記連絡先にお問い合わせください。**

みやぎの農業普及現場 NEWS LETTER No.202

発行日:2023年 xx月 xx日

発行:宮城県農政部農業振興課

編集:宮城県農政部農業振興課普及支援班

TEL:022-211-2837 FAX:022-211-2839

E-mail : gbfs@pref.miyagi.lg.jp